第２章　本道の高齢者を取りまく状況

第１節　人口構造

１　65歳以上人口の推移

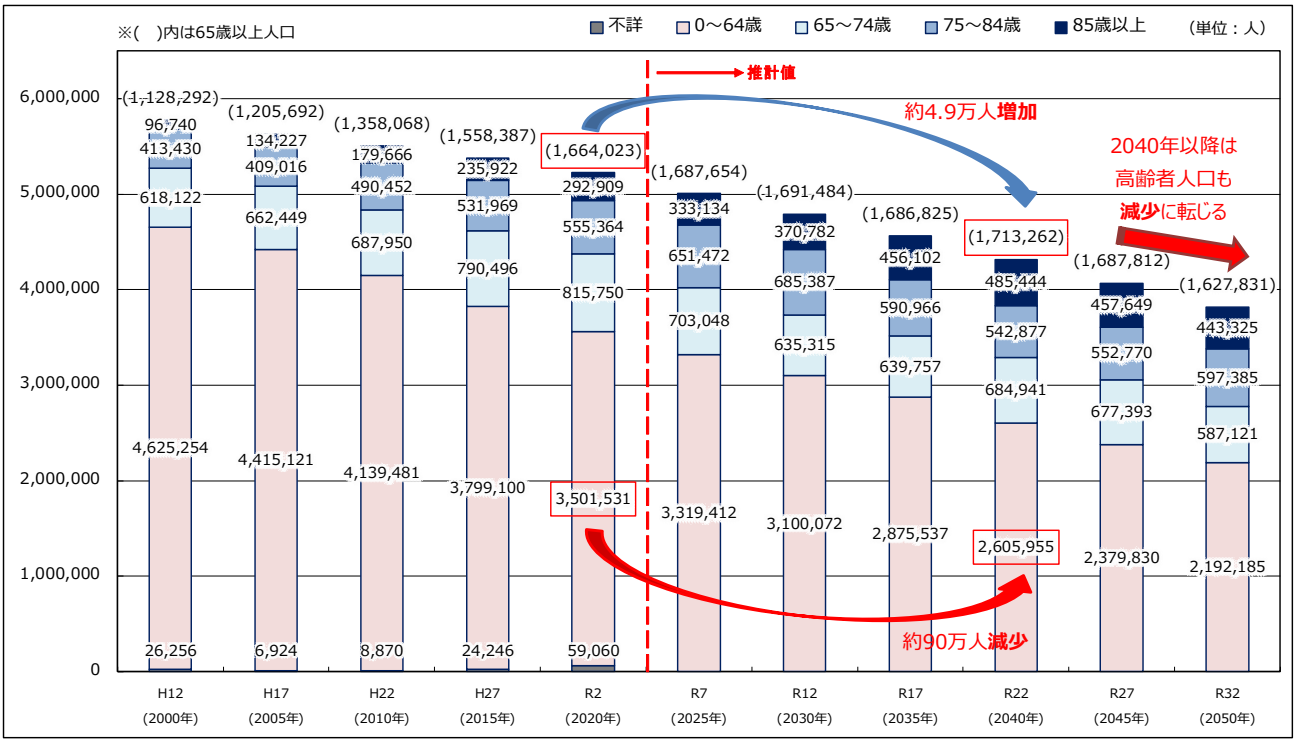
○　国勢調査の結果を見ると、本道の65歳以上の高齢者人口は、平成12年（2000年）に100万人を超え、令和２年（2020年）には、1,664,023人となっています。

○　このうち、「65～74歳人口」が815,750人、「75～84歳人口」が555,364人、「85歳以上人口」が292,909人となり、本道の調査結果としては初めて「75～84歳人口」と「85歳以上人口」を合わせた人数（848,273人）が「65～74歳人口」を上回る結果となりました。

○　また、「団塊の世代」が75歳以上となる令和７年（2025年）には、65歳以上の高齢者人口が168万人を超える見込みです。

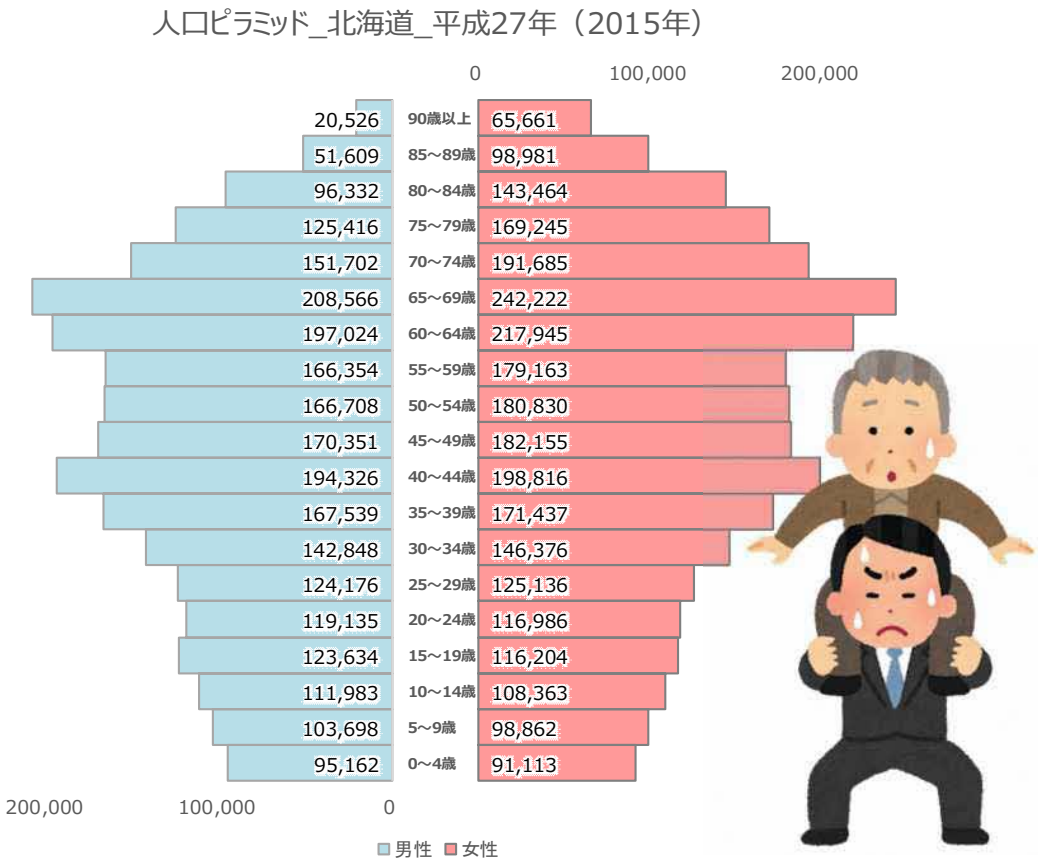
○　令和２年（2020年）と比較すると、令和22年（2040年）には、0～64歳の人口が約90万人減少して約260万人となる一方、65歳以上の人口は約4.9万人増加し、約170万人に達することが見込まれます。

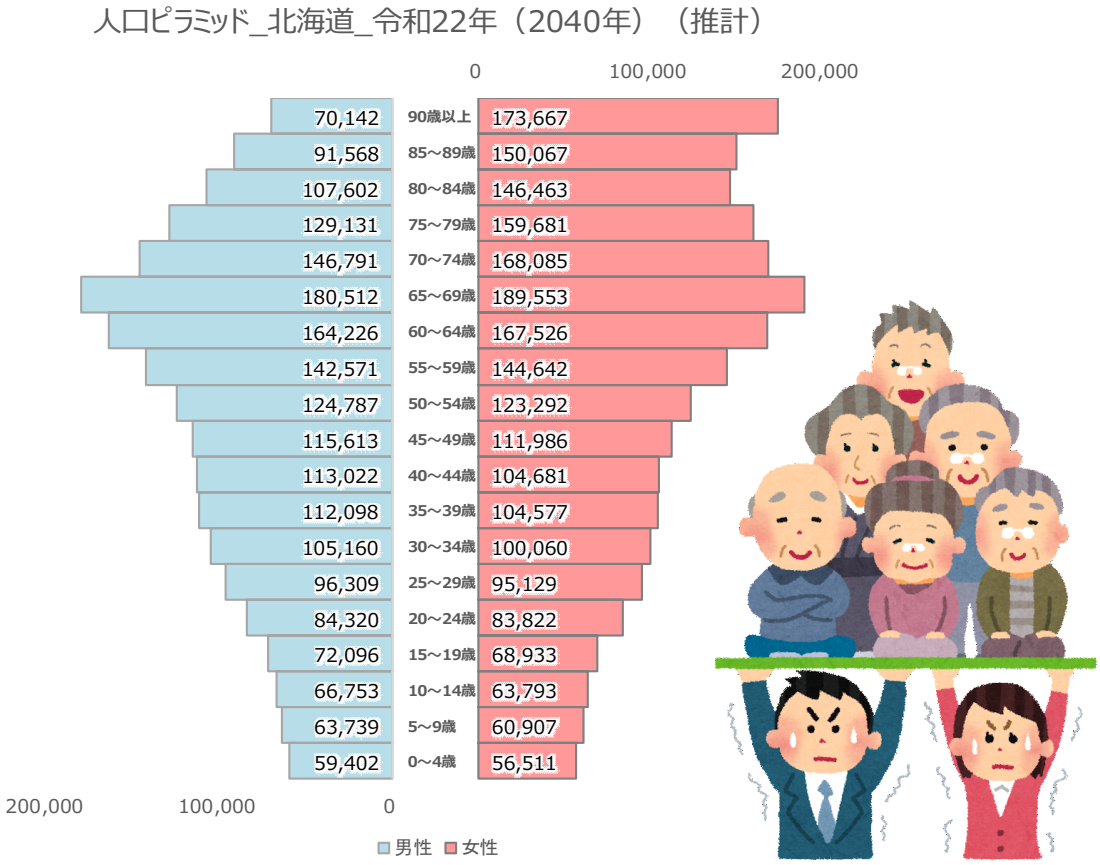
図表1-1_【全道の人口の推移と推計】



［資料］実数値：総務省統計局「国勢調査」
推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）」

図表1-2_【本道の人口ピラミッド】





［資料］実数値：総務省統計局「国勢調査」

推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）」

2　高齢者世帯の推移

○　世帯主が高齢者である世帯（高齢世帯）の総世帯に占める割合は、令和２年（2020年）は39.3%であり、令和７年（2025年）には４割を超えると推計されています。

○　世帯類型別では、単身高齢世帯が高齢世帯に占める割合が、令和２年（2020年）では37.3%であり、令和７年（2025年）には39.1%、令和22年（2040年）には43.1%になると推計されています。

○　また、令和２年（2020年）は、「単身高齢世帯」が「夫婦のみ高齢世帯」を上回る、361,735世帯となっており、「単身高齢世帯」は今後も増加していくことが見込まれる一方、「夫婦のみ高齢世帯」は今後減少していくことが見込まれます。

図表1-3_【世帯の推移】

区　　分			令和2年(2020年)		令和7年(2025年)		令和22年(2040年)	
			北海道	全国	北海道	全国	北海道	全国
総世帯数	（A）	（世帯）	2,469,063	55,704,949	2,384,223	54,116,084	2,086,436	50,757,068
高齢世帯数	（B）	（世帯）	969,376	20,272,825	992,662	21,031,332	996,811	22,422,563
総世帯に占める割合	（B/A）	（%）	39.3%	36.4%	41.6%	38.9%	47.8%	44.2%
夫婦のみ高齢世帯数	（C）	（世帯）	355,465	6,724,155	353,808	6,763,271	328,439	6,869,612
総世帯に占める割合	（C/A）	（%）	14.4%	12.1%	14.8%	12.5%	15.7%	13.5%
高齢世帯に占める割合	（C/B）	（%）	36.7%	33.2%	35.6%	32.2%	32.9%	30.6%
単身高齢世帯数	（D）	（世帯）	361,735	6,716,806	388,335	7,512,007	429,164	8,963,207
総世帯に占める割合	（D/A）	（%）	14.7%	12.1%	16.3%	13.9%	20.6%	17.7%
高齢世帯に占める割合	（D/B）	（%）	37.3%	33.1%	39.1%	35.7%	43.1%	40.0%

［資料］令和２年は総務省統計局「国勢調査」

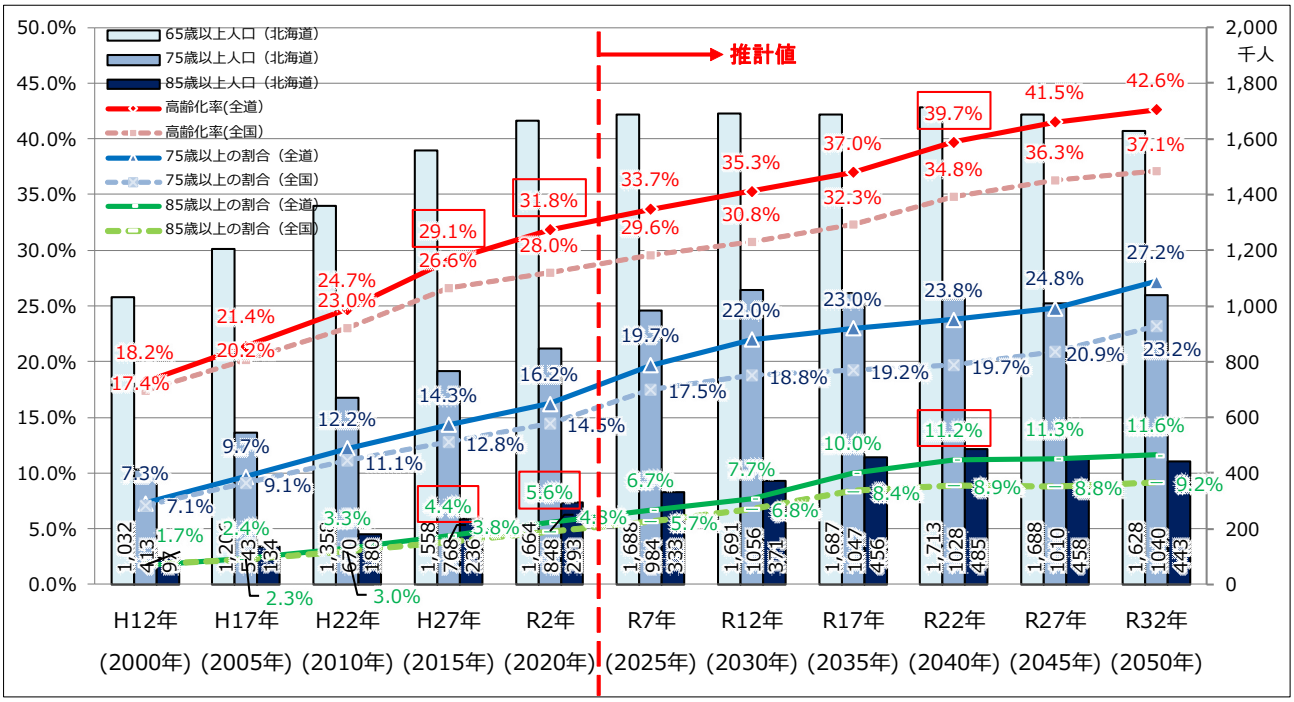
令和７年以降は国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」（平成31年４月推計）

3　高齢化率の推移

○　本道の高齢化率は、平成27年（2015年）は29.1%（全国20位）でしたが、令和２年（2020年）には初めて30%を超え、31.8%（全国18位）となっており、令和22年（2040年）には39.7%に達する見込みです。

○　85歳以上人口の割合は、平成27年（2015年）は4.4%（全国26位）でしたが、令和２年（2020年）には5.6%（全国25位）となっており、令和22年（2040年）には11.2%となる推計です。

図表1-4_【全道の高齢化の推移と推計】



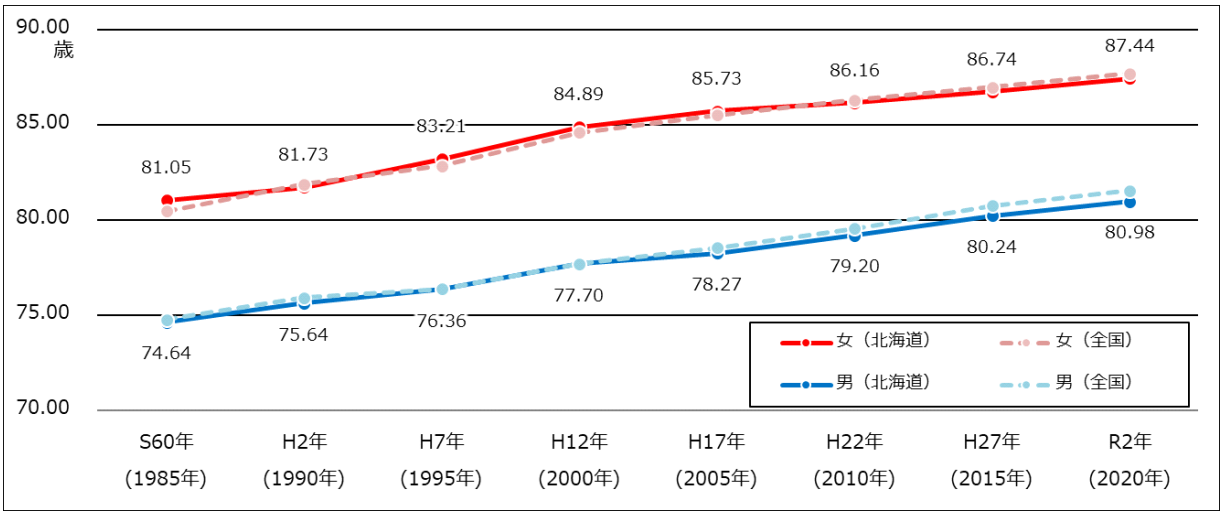
［資料］実数値：総務省統計局「国勢調査」

推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５（2023）年推計）」

4　平均寿命の推移

○　令和２年（2020年）の本道の平均寿命は、男性が80.98歳、女性が87.44歳となっており、平成27年（2015年）と比較して男性が0.74歳、女性が0.7歳延びています。

図表1-5_【平均寿命の推移】



［資料］北海道：北海道保健福祉部「簡易生命表」

全　国：厚生労働省「完全生命表」

第２節　高齢者の生活状況

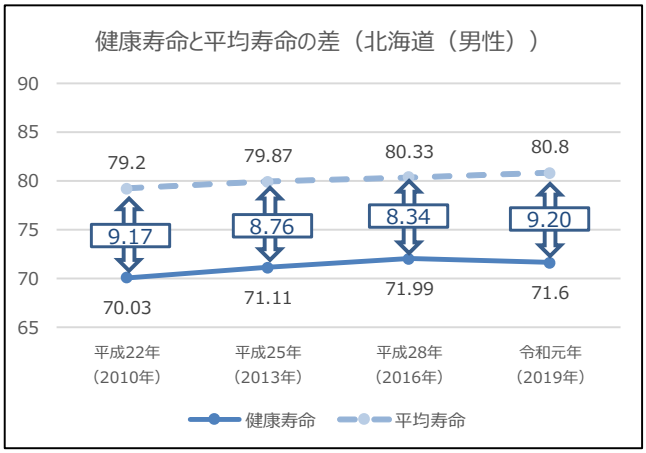
１　高齢者の健康状態等

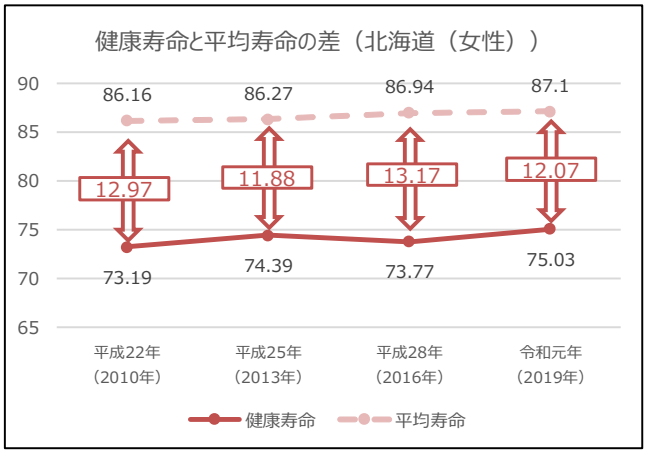
（１）健康寿命と平均寿命の差

○　令和元年（2019年）における、本道の健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間（以下「健康寿命」という。）は、男性71.6歳、女性75.03歳となっており、健康寿命と平均寿命の差は男性が9.2年、女性が12.07年となっています。

○　男女ともに約10年程度、日常生活に何らかの制限を受けつつ生活することを余儀なくされ、この制限が大きくなると介護サービスなどの利用が必要となります。

図表1-6_【健康寿命と平均寿命の差】





※ 健康寿命：厚生労働省「健康寿命の令和元年値について」（第16回健康日本21（第二次）推進専門委員会（R3.12.20）資料より）

平均寿命：北海道保健福祉部「簡易生命表」

（２）高齢者の疾病構造

○　一般的に、高齢者は病気にかかりやすく、慢性的な疾患が多いため、療養期間も長くなるなどの傾向があります。

○　本道の高齢者の疾病構造を見ると、医療機関に受診している65歳以上の57.5%が循環器系の疾患を抱えているほか、35.3%は筋骨格系及び結合組織の疾患を抱えています。

図表1-7_【疾病構造】

年齢区分	第1位		第2位		第3位	
	疾病内容	割合（%）	疾病内容	割合（%）	疾病内容	割合（%）
45～54歳	消化器系の疾患	18.6	精神及び行動の障害	11.4	筋骨格系及び結合組織の疾患	9.3
55～64歳	消化器系の疾患	13.3	筋骨格系及び結合組織の疾患	11.4	循環器系の疾患	10.7
65～74歳	循環器系の疾患	14.2	消化器系の疾患	14.0	筋骨格系及び結合組織の疾患	12.5
75～84歳	循環器系の疾患	17.6	筋骨格系及び結合組織の疾患	13.3	消化器系の疾患	11.0
85歳以上	循環器系の疾患	25.7	神経系の疾患	10.2	筋骨格系及び結合組織の疾患	9.5

［資料］厚生労働省「令和２年患者調査」

※上記調査の分類で「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」については、予防接種を受ける場合 や 本来疾病や損傷ではない何らかの問題に関し相談するために受診している場合など、疾病に罹患していないものも含まれることから、集計から除外している。

（３）認知症高齢者の現状と推計

○　高齢者の増加に伴い、認知症高齢者も増加することが見込まれており、「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業）」では、団塊ジュニア世代が高齢者となる令和22年（2040年）に全国で約800～950万人が認知症になると推計されています。

○　この有病率を道内の高齢者人口にあてはめた場合、令和22年（2040年）には約35～42万人になると推計されます。

図表1-8_【認知症高齢者数の推計】

区　分		H24(2012)	H27(2015)	R2(2020)	R7(2025)	R12(2030)	R22(2040)
全国	各年齢の認知症有病率が**一定**の場合の将来推計※1	462万人 (15.0%)	517万人 (15.2%)	602万人 (16.7%)	675万人 (18.5%)	744万人 (20.2%)	802万人 (20.7%)
	各年齢の認知症有病率が**上昇**する場合将来推計	462万人 (15.0%)	525万人 (15.5%)	631万人 (17.5%)	730万人 (20.0%)	830万人 (22.5%)	953万人 (24.6%)

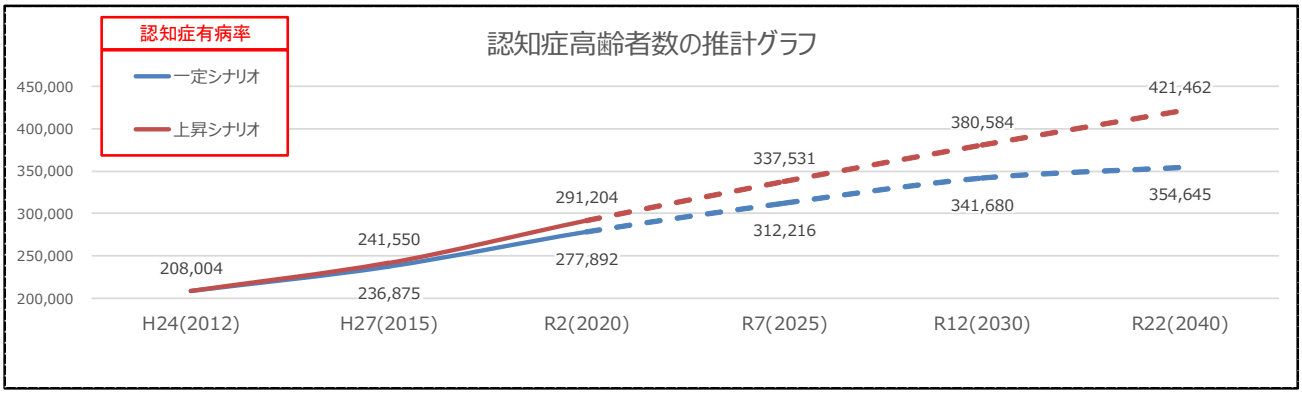
※1　各年齢の認知症有病率が一定であっても加齢によって認知症有病率は上昇する。本表上欄の「各年齢の認知症有病率が一定」と仮定しつつ、経年によって有病率が上昇しているのは、高齢者人口の平均年齢が上昇することによるもの。

上記の有病率を本道の高齢者人口にあてはめると・・・

区　分		H24(2012)	H27(2015)	R2(2020)	R7(2025)	R12(2030)	R22(2040)
北海道の高齢者人口 （R7以降は推計）		1,386,695人	1,558,387人	1,664,023人	1,687,654人	1,691,484人	1,713,262人
①	各年齢の認知症有病率が**一定**の場合	15.0%	15.2%	16.7%	18.5%	20.2%	20.7%
	認知症高齢者数	208,004人	236,875人	277,892人	312,216人	341,680人	354,645人
②	各年齢の認知症有病率が**上昇**する場合	15.0%	15.5%	17.5%	20.0%	22.5%	24.6%
	認知症高齢者数	208,004人	241,550人	291,204人	337,531人	380,584人	421,462人

［資料］「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業）
令和７年(2025年)以降は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和５(2023)年推計）」

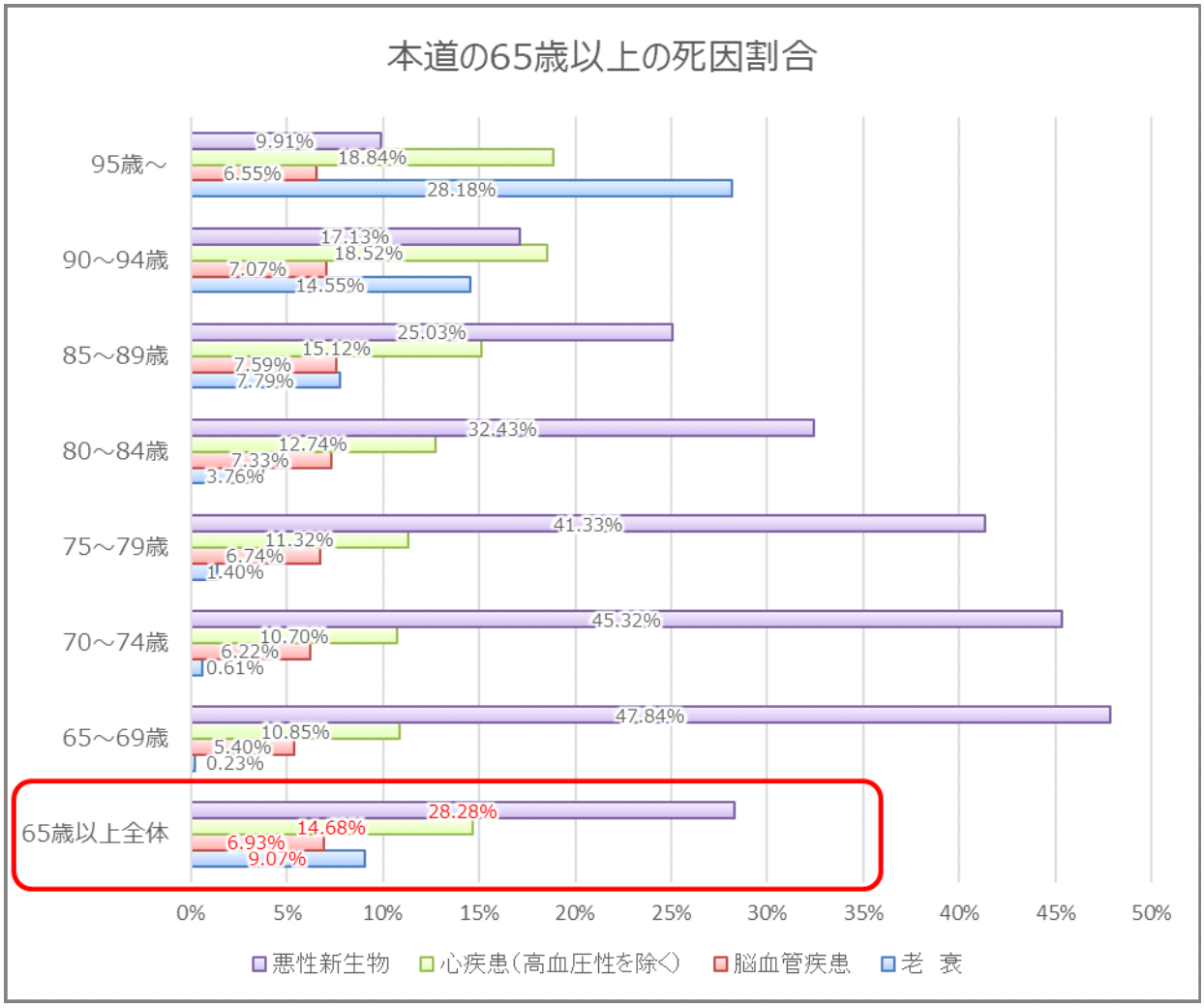
図表1-9_【認知症高齢者数の推計グラフ】



（４）高齢者の死因割合

○　本道の65歳以上の死亡者数のうち、死因第１位が「がん」（約32.2%）、第２位が「心疾患」（約14.3%）、第３位が「老衰」（約7.5%）、第４位が「脳血管疾患」（約7.0%）となっており、年齢５歳階級ごとの割合が次のとおりとなっている。

図表1-10_【高齢者の死因割合】



［資料］北海道保健福祉部「保健統計年報」（令和３年）

2　高齢者の住まいの状況

○　本道の住居環境についてみると、「手すりがある」、「段差がない」など、いわゆるバリアフリーの住宅の割合が増加しています。

図表1-11_【高齢者等のための設備がある住宅の割合】

区　　分	北海道		全　国	
	平成25年 (%)	平成30年 (%)	平成25年 (%)	平成30年 (%)
高齢者等のための設備がある	48.5%	49.4%	50.9%	50.9%
手すりがある（全体）	39.8%	41.3%	40.8%	41.8%
トイレ	20.0%	21.1%	19.8%	20.7%
浴室	21.8%	22.7%	22.9%	23.3%
階段	25.8%	26.6%	25.8%	26.2%
またぎやすい高さの浴槽	17.1%	16.3%	20.7%	18.8%
廊下などが車いすで通行可能な幅	12.8%	13.0%	16.2%	15.5%
段差のない屋内	20.1%	20.2%	21.4%	20.9%

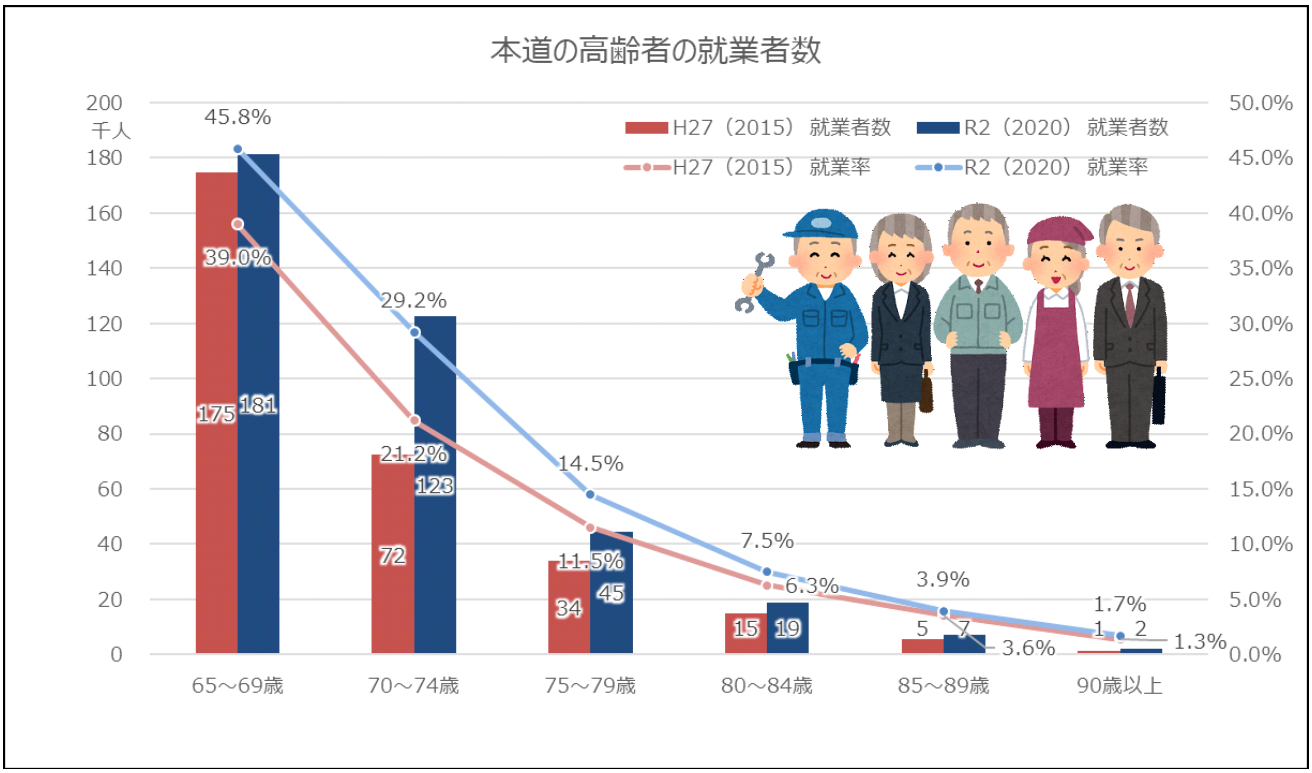
［資料］総務省統計局「住宅・土地統計調査」（平成25年、平成30年）※複数回答

3　高齢者の社会参加等の状況

（１）就業の状況

○　令和２年（2020年）の国勢調査では、本道の高齢者の就業状況は、377千人となっており、平成27年（2015年）の調査結果と比較すると、75千人増加しています。

図表1-12_【高齢者の就業者数】



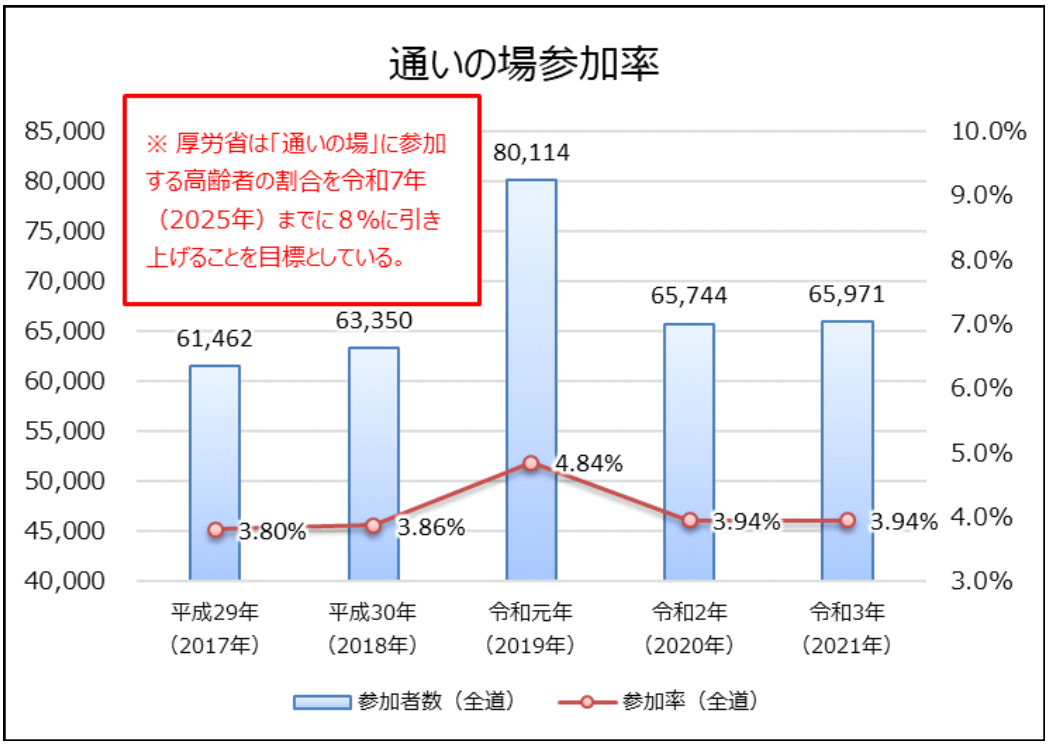
［資料］総務省統計局「国勢調査」

（２）社会参加の状況

○　地域の住民同士が気軽に集い、一緒に活動内容を企画し、ふれあいを通して「生きがいづくり」「仲間づくり」の輪を広げる場である「通いの場」には、令和３年（2021年）で65,971人が月１回以上参加しています。

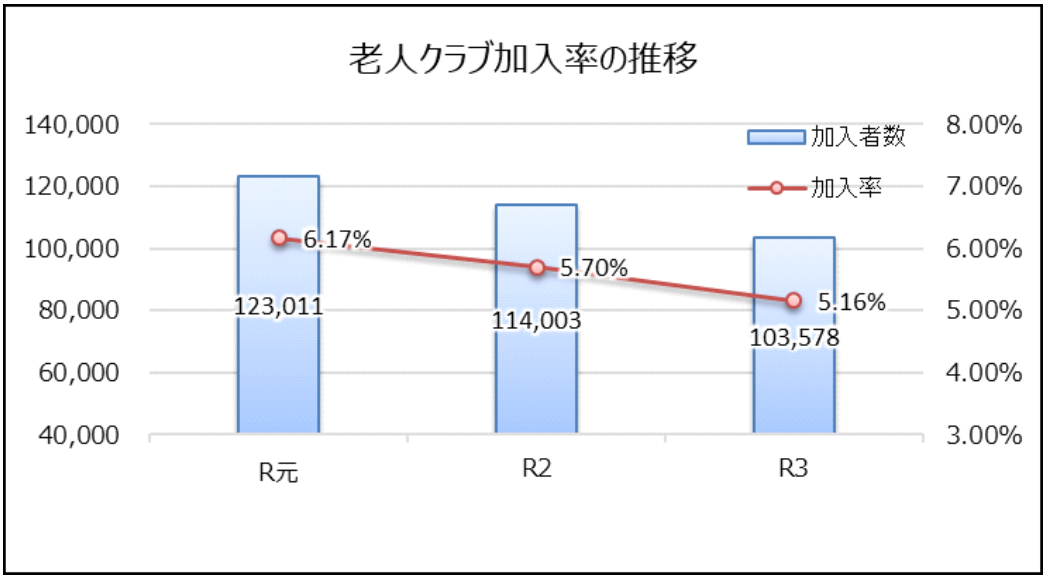
○　また、高齢者の自主的な組織として生きがいと健康づくりや社会奉仕活動などの社会参加に積極的に取り組んでいる「老人クラブ」には、令和４年（2022年）３月31日現在、2,789クラブに103,578人の会員が加入していますが、減少傾向にあります。

図表1-14_【通いの場参加率】



［資料］厚生労働省「介護予防・日常生活支援総合事業（地域支援事業）の実施状況に関する調査結果」
総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」（各年度1月1日時点）
※参加率：参加者数／1月1日時点の本道の65歳以上人口

図表1-13_【老人クラブ加入者数の推移】



［資料］加入者数：厚生労働省「福祉行政報告例」各年度末時点
加入率：加入者数／1月1日時点の本道の60歳以上人口